

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-63C	16-091	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Association between lifetime alcohol consumption and prostate cancer risk: A case-control study in Montreal, Canada. 生涯飲酒量と前立腺癌リスクとの関連：カナダ、モントリオールにおける患者対照研究		
執筆者		
Demoury C, Karakiewicz P, Parent ME.		
掲載誌		
Cancer Epidemiol. 2016 Dec;45:11-17. doi: 10.1016/j.canep.2016.09.004. Epub 2016 Sep 22.		
キーワード		PMID
生涯飲酒量、前立腺癌、患者対照研究		27664387
要 旨		
目的：		
飲酒が前立腺癌を増加させる可能性がある。多くの既報が重要な方法論的な限界を持っている。		
方法：		
カナダのモントリオールで、一般住民対象の前立腺癌に対する患者対照研究を行った。研究対象は患者 1,933 人と対照 1,994 人。生涯飲酒量は対面式の面接により、酒の種類毎に聴取した。飲酒量と前立腺癌リスクの関連は可能性のある交絡因子を調整し、前立腺癌のスクリーニング歴を考慮に入れて、オッズ比と 95%信頼区間（以下 OR、95%CI と記載）で評価した。		
結果：		
生涯飲酒量と高悪性度の前立腺癌との間には弱い正の相関関係を認めたが有意ではなかった(OR=1.18、95%CI=0.81-1.73)。現在飲酒者ではリスクがより高く(OR=1.40、95%CI 1.00-1.97)、特に直近の前立腺癌の検診の時期を調整した後に高かった(OR=1.52、95%CI 1.07-2.16)。これらの関連はビールの飲酒で認められた。蒸留酒の飲酒は低悪性度の前立腺癌リスクを下げたが、現在飲酒者に限定すると有意差はなくなった。ワインの飲酒は前立腺癌のリスクと何も関連を認めなかった。		
結論：		
多量の飲酒は高悪性度の前立腺癌リスクを上昇させた。この関連はビールの飲酒で認められ、前立腺癌のスクリーニング歴を考慮に入れた時により強い関連となった。		